

○印の所が会館建築予定地



着々と組織作りを

理事長 空 地 純 一 (第一回卒業)

近年稀なる天候異変が打続きましたが、同窓諸君には益々お健かにご活躍のこととお慶び申上げます。

さて、お待ちかねの「白城会通信」第二号が発行されました。前号は内容外観共に聊か物足りない感がございましたが、意外に多くの皆様から喜んでいただきました。それと申すのも、多年待望的であった本部通信とあってなつかしくお読み下さったおかげです。この度もまたあまり変りばえもありませ

んが、若い方々の座談会をお楽しみ下さい。こうして号を重ねてゆくうちにだんだんと立派なものに成長すると思います。

本部では今春三二八名の新会員を迎える以外に動静に変りはありませんが、只今会館募金や通信発行乃至会員名簿作製などで張り切っております。更に又、京都、東京に次いで最近大阪にも支部が結成され、去月盛大な支部発会式が行われました。その後各地に支部を作る機運が生まれております。誠にどうぞ。白城会館建設に就きましては、各回毎の幹事、世話人の方々の特別のご努力と一般会員



No.2 昭和40年7月
題字は空地純一氏

白城会本部
姫路市伊丹居678
姫路西高等学校内
理事長 空地 純一
長谷川隆吉
橋 義康
鳩川 晏弘
印刷所 明輝堂印刷所
姫路市総社町81
電話(0794) 1094・1095

<目 次>

着々と組織作りを 空地純一 1
同窓の悲願まさにならんとす 2
着工にあたって 4
...井内賀久次 4
伸びつづける進学率 岸 達男 5
母校教員異動 6
先輩訪問記 8
〔特集〕 座談会	
母校 戦中戦後の歩み 15
(先輩寄稿)	
観測は設備ではない 桑原昭二 25
今も昔も変わらない 伊賀弘三郎 27
...伊賀弘三郎 29
支部だより 31
白城会文庫目録 31
本部告知板 31

各位の理解あるご協力により、この一ヶ年の間に応募金額壱千万円を突破し予定額に今一度という所まできました。本当に有難く思つております。会館建設は全校友の手で建てる前からも、この際未応募の方はどうぞよろしくお願ひ申上げます。今年中に着工、来年三月には竣工の予定です。ご期待下さい。

次に会員名簿の件ですが昨年、創刊号を郵送しましたところ、思いの他多数返送されま

るしくお願い申上げます。今年中に着工、来年三月には竣工の予定です。ご期待下さい。

最後に、本号に予告しております通り、来る八月十五日、母校に於て総会を開催致しますので万障お縁合せの上奮ってご出席下さる所存じます。

同窓の悲願まさにならんとす

校内理事 石坂 豊明 (第四八回卒業)

（第三回）

県下最古の私達の母校が国府寺町から城北に位置してより五十年の間、姫中、姫路西校の同窓を育ててきた旧校舎も寄る年波に老朽して、その改革は戦前からの念願でありました。去る昭和十五年、姫中校友会は当時の金にして十五万円を募金して県に納入しましたが、折柄の大戦で延期、やがて戦後のインフレで同窓の願いも空しくなっていたのでした。

しかし校舎の腐朽いよいよ甚しく不測の事

故も気遣われるに至り、昭和三十年賀集校長の時に総改築に着工されたのであります。當時四二〇〇万円の地元負担金は容易なことではありませんでした。そこで白城会はその一部、五〇〇万円を負担する一方、第六期工事として講堂が完成の暁には、それに白城会講堂の名を冠して同窓協力の象徴にすることにきめ、募金を開始したのが昭和三十一

年十二月であります。

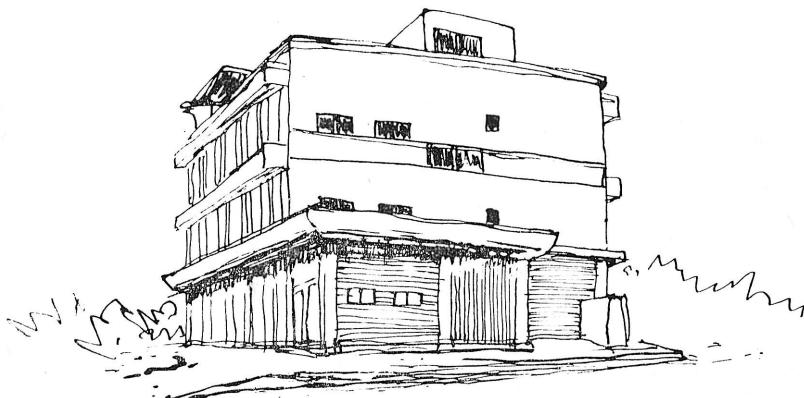
当時早速多数の同窓の御協力を得たのであ

した。全くこれは名簿の不備によるものと存じ更の如く恐縮致しますとともに、早速改版にふみきりました。調査も着々と進んで居りますので恐らく十月頃には出来上ること存じます。

そこで昨三十九年度は、白城会独自で、物価高と生徒増に見合うよう四、五〇〇万円を負担して講堂を建設寄附するか否かが課題となりましたが、白城会通信一号で報告の通り、図書館生徒集会場の階上に白城会館を附して日常後輩の使用に供し、又同窓会館として集会、宿泊にも利用する事として、図書館の県予算が通過次第募金を一挙に進めることに決定しました。

幸にして井内校長、宗行育友会長を始め要路の同窓のご努力により意外に早く昨年九月県会に於て図書館の予算の一部が議決されましたので、校内で会館の設計にかかり、統一して、校内で会館の設計にかかり、統一して県営繕課に本式に設計を依頼する一方直ちに募金準備に着手し十二月、一、七〇〇万円を目指に同窓各位に檄をとばしたのであります。

それからは各期幹事、実行委員、各地支部



西高正門より望んだ白城会館完成予想図（36回卒尾田龍氏による）

長、幹事各位の絶大なるご努力と、同窓各位の熱烈なるご協力により募金額は着々と増加し、七月十日現在で募金額一四、八四五、六九六円、利子二、七一五、六〇〇円、計一七、五六一、二九六円に達し白城会館建設の目途がほぼつきました事は感謝にたえぬ次第であります。

（別冊の各期募金額及び目標達成率中間報告及び募金中間明細表参照）

更にご協力を切望す!!

しかししながら、既に支出済の募金費が五一九、八〇〇円、今後支出を要する募金費五〇万円、建築費一、六〇〇万円、内部設備費二〇〇万円、設計監督費、式典費を見込みますと、もう約三二〇万円の不足が判明したのであります。

これは理事の不明のいたす所で厚くお詫びいたす次第であります。事情ご賢察の上、更にご協力を切望する次第であります。

今募金者のご芳名を披いてみますと、この十年の間に募金をして下さった方で物故された方々も数多いのであります。白城会館の偉容をこの方々にお見せしたかったと思うと共に、この完成を期することは生残った者の義務であると思います。種々の事情で未だご寄

附をいただけぬ方も六割以上ございますが、どうか何程にてもご協力を賜わり、後輩と我々との為に同窓の総力をあげた象徴として会館を完成させていただきたいのであります。

起工式迫る!!

一方工事計画の進捗状況であります。三月には残部の県予算も通過し、五月初旬には基本及び細部設計も完了しましたので、六月中旬に入札、六月末起工式という見込であります。折しも六月初旬に県教委内で不祥事件が発覚しました為に事務が遅れ、工事方式について筋を通すことが要請されましたので日程が遅れていますが、此の程工事申請書類も受理されましたので七月中旬はに起工、この通信のお手許に届く頃には槌音も高く工事が進んでいる事であります。そして来年三月には実に永年の同窓の念願が遂に実を結ぶのであります。母校の近くにお出の時は正面北の工事現場を是非ご覧いただきたいとお願いしてこの報告を終ります。

産経新聞に掲載された『姫中・西校の先輩後輩』がパンフレットになりました。
御希望の方は本部又は31回竹内英夫氏まで照会して下さい。

着工にあたつて

姫路西高等学校長 井 内 喜 久 次



本校は明治十一年創立以来八十余年の歴史を持ち立派な伝統をほこる正に天下の名門であります。卒業生は

約一三、五〇〇名の多数にのぼり、しかも同窓生各位は社会の各分野で質実剛健の気風の上に生來の優れた才能識見と不撓不屈の精神で着々と地歩を

かためられ、堂々たる地位の人士が非常に多く、国内は勿論、世界的に著名の方も少くありません。かくの如く光輝ある本校に在住しています。

幸にして、昨年九月県議会で、多年の懸案であった図書館が県関係当局の配慮により建設されることになりました。図書館が二階に設置されますので、本校育友会と城北高校育友会で一階のピロティを作成して生徒集会場を設けていただきました。更に白城会々員の多額のご醸金に依りその三階に白城会館を建設していただきました。その場所は南新館の東側で、一階生徒集

野の広い人間形成を目標に生徒の指導に当つて居りますが、更に教育内容の充実に努力して将来の躍進を企図しご期待に沿いたいと念願して居ります。

学校の施設につきましては、昭和三十年度校舎の全面改築が開始され、現在鉄筋三階建の南北二校舎と体育館兼講堂が完成して居ります。更に理科施設の拡充、旧講堂、旧体育館の移築、水泳プールの建設、運動場の整備、校庭の植樹等の計画を実施いたしたいと念願して居ります。

幸にして、昨年九月県議会で、多年の懸案であった図書館が県関係当局の配慮により建設されることになりました。図書館が二階に設置されますので、本校育友会と城北高校育友会で一階のピロティを作成して生徒集会場を設けていただきました。更に白城会々員の多額のご醸金に依りその三階に白城会館を建設していただきました。その場所は南新館の東側で、一階生徒集

本校の一筋の伝統精神「質実剛健」の氣風を基調として時代に即応した知育・体育・德育でバランスのとれた国際社会に通用する視

会場、二階図書館、三階白城会館で各階約一五〇坪の鉄筋三階建の堂々たる建物が出来上るのであります。この白城会館を平常生徒の教育活動に利用させて貰いますので、本校としても施設の面で飛躍的に増強することになります。既に全部の設計が完了し、近日中に入札、着工の予定ですし、竣工は来年二月と予定して居ります。この会館建設のための募金には役員の諸氏は勿論、会員各位の物心両面の一方ならぬご高配、ご芳情を賜りましたことを衷心より感謝して居ります。又これらの施設の建築工事の手続で、時節柄種々難しい点がありました。但し、理事長空地純一氏をはじめ本校育友会長宗行源治氏、兵庫県出納長吉田豊信氏のみなみならぬご尽力に依りまして順調に推進していただきましたことに對して深甚の敬意と感謝をささげます。

從来白城会々員各位より母校教育進展のため絶大なる援助ご鞭撻をいたいて居りますが、特にこの度の同窓会館建設について格別のご高配を賜りまして深く感銘いたして居ります。会員各位のご発展を心よりお祈りいたします。

伸び続ける進学率

— 暖かい先輩の愛情に包まれて —

本校教諭 岸 達男 (五五回卒)

本年（昭和四十年）の卒業生十七回生の大學生進学指導の係をした者として、大学合格状況につき、報告致したいと思います。

本年も例年通り、先輩の栄誉を傷つけないだけの優秀な成績を収めることができましたことを、会員の一人として、誠に喜ばしいことだと思います。

これを主だった大学の合格者数について見ますと

東京大学 三名 (現役)

京都大学 四十名 (内現役三十五名)

これは京都大学合格者数では、全国第十一位です。

大阪大学 九名 (内現役八名)

神戸大学 五十四名 (内現役五十二名)

等で、国立大学合格者數五百五十一名 (内現役百三十八名) 公立大学合格者數九十名 (内現役八十二名) 私立大学合格者數百四十一名 (

内現役百十七名) で、本年卒業生の進学希望者二百九十四名の内、八十五%に近い者が、その目的を達成したことになります。

さて、我が西高は、ここ数年各方面の援助により、校舎の整備も着々と進み、旧校舎は殆んど解体されて、昔の面影を残すものは講堂、旧体育館ぐらいのもので、ここ城北の地に、立派な鉄筋三階建の建物が二棟立ち並び、全く面目を一新しましたが、その立派なうつわの中にいる生徒の学力の伸びは、どんなでしようか？それを大学進学状況によつて考察して見ます。

即ち最近三ヶ年間、昭和三十八年、三十九年、四十一年卒業生の、主要大学合格者數平均と、約十年前の昭和二十九年、三十年、三十年卒業生の主要大学合格者數平均とを比較して見ます。

一方前記大学の定員は、何程増加しているか調べて見ますと

	昭和29.30.31年 度定員数 均平	昭和38.39.40年 度定員数 均平	定員 伸び率
東京大学	2,040	2,700	約1.4倍
京都大学	1,350	2,230	約1.6倍
大阪大学	860	1,540	1.8倍
神戸大学	1,230	1,380	1.1倍

以上二つの表を比較して、十年前と現代とでは、本校現役の合格率はぐんと増し、大学定員の伸び率を大きく上回っていることが判明し

	昭和29.30.31年度合格 数平均者	昭和38.39.40年度合格 者平均	現 役 伸び率
東京大学	5(内現役 2)	5(内現役 4)	2倍
京都大学	10(" 8)	36(" 31)	約4倍
大阪大学	7(" 5)	11(" 9)	1.8倍
神戸大学	37(" 29)	52(" 46)	1.6倍
国立大学	70(現役)	132(現役)	1.9倍
公立大学	38(")	76(")	2倍
私立大学	85(")	127(")	1.5倍

ます。（大阪大学のみ伸びは認められない）

京都大学等は、年々合格者数が増加しつつあることは、誠に喜ばしいことだと思います。

最近週刊誌等でも、何々大学に、何処の高

校より何名合格したかと云った事が記事になつてゐるのを見ましたが、世間一般の人が大

学入試に可成りの関心を示していることが察知出来るわけです。それだけ我々も、西高発展の為に、大いに頑張りたいと覚悟を新にしている次第です。

尚、本年三月の大学入試に際して、感銘を受けたことがありますので、それをここに報告し感謝の意を表したいと思います。それは

本校の先輩が、受験に來た後輩の面倒を、親身になって実によく見たことです。例えば京

大では、在学中の先輩が京大を受験に來る後輩の氏名、受験学部、宿泊所所在地の一覧をプリントして配布し、手分けして受験前日宿泊所を回って励ましたり、受験に関する適当な助言を与えたり、実に細かい所迄後輩の為に気を配り、精神的な援助を与えました。

これは京大に限った事ではなく、全国各地の大學生に在学する先輩より「若し私の大学を受験する者があれば、氏名を知らせて欲しい、又宿舎のお世話を致します。」といった手紙を戴

き、先輩の後輩に対する温いおもいやりが充分感じられ、私は非常にうれしく思いました。

これは当然の事かも知れませんが、美しい西高精神のあらわれとして何時迄も受け継ぎ継承して行つてほしいと思います。

最近各地で白城会の支部が結成され、会員の結束が進められておりますが、今後益々白城会が発展することを祈りつつ報告を終ります。

母校教員異動



わが生涯の転機

尾田 龍

人生はわからないもので私は教師生活をこんなに長く続けることになろうとは予想していなかつたことでし

た。まして終戦後の男女共学の実施で県女と姫中との交流でくじにあたつて母校の美術の教師にならうなどとは夢にも考えなかつたこ

とです。戦前の東京時代からかぞえて三十数年、西高校になってからでも十七年になります。ことに西高校では白城会校内理事の大任を仰せつけられ、白城会館建設募金の大事業に直面しましたが、生来の不敏、ただ校友や同僚の諸氏のご援助で辛うじて日々を糊塗して参りましただけでまことに申しわけないと

思つて居ります。このようなことで何とか過ごせましたのも母校なればこそと深く感謝して居ります次第、在職中は公私とも本当に皆様にお世話になりました。厚くお礼申し上げますと共に今後のご厚宜の程お願いいたします。

これからは今までなおざりにして居りまし

た絵の仕事に専念して自分を徹底的にほりさげて行くつもりです。その為にも研究発表の意味で来年四月東京で個展を開く予定です。

退職いたしましたが週二回講師として西高の教壇に立って居ります。また私に出来ることがありましたら白城会のためにも微力をつくしたいと思って居ります。しかし一応職を退きましたし、またこれは私の生涯の重要な転機でもありますので一言ご挨拶申し上げます次第です。



わが生涯の第一歩

北条 信二

「天下の名門西高で
一」と新任式の挨拶を
しましたのが、ついこ
の間の事のように思え
るので、早くも八

年の月日が過ぎました。
振り返ってみると、失敗の連続で、各方面
に御迷惑ばかりおかけして参りましたが、学
識、経験ともに極めて豊かな諸先生方の温い
御指導をうけまして、何とか教師らしくなり
ました。

今度、都合で西高を去る事になりましたが

教師としての第一歩の段階を豊かに過させて

頂きました学校として、永久に忘れる事が出来ないと思ひますし、同時に、いつまでも、

西高の成長、発展、繁栄を祈り続けていくつ
もりです。

姫路南高校より。
卒。

姫中五四回卒。
児島 格二先生（英語担任）

赤穂高校より。
松村 保成先生（英語講師）
大学英語科卒。

赤穂中学校長、小野高校長、洲本高校長を
経歴。
山田 聰先生（国語講師）
大学第一文学部国文科新卒。

赤穂中学校長、小野高校長、洲本高校長を
経歴。
古田 英機先生（体育講師）
大学体育科卒。

中村 幸吉先生（英語）赤穂高校教頭より姫
路商業高校教頭へ。
斎藤 義夫先生（数学）香住高校長より新設
の新宮高校長へ。
発 智彦先生（英語）兵庫高校教頭より村岡
高校長へ。

松井 利男先生（国語）姫路商業高校長より
県教育委員会調査連絡課長へ。
高井 竹男氏 姫路商業高校事務長退任、

姫路ダイヤ冷暖房K.K.勤務。
金川 二郎先生（体育）教育研究所より飾磨
土居 正信先生（理科担任）
中部中学校長へ。

昭和四十年度

母校永年勤続教員の異動 (順序不同)

真下 恭先生 ヨーロッパ音楽事情観察のため
め八月三日、羽田発。ウェイン・ミンヘ
ン・ザルツブルク・チューリッヒ・パリ
・ローマ各地遍歴、約一ヶ月の予定。
中村 幸吉先生（英語）赤穂高校教頭より姫
路商業高校教頭へ。
斎藤 義夫先生（数学）香住高校長より新設
の新宮高校長へ。
発 智彦先生（英語）兵庫高校教頭より村岡
高校長へ。

松井 利男先生（国語）姫路商業高校長より
県教育委員会調査連絡課長へ。
高井 竹男氏 姫路商業高校事務長退任、
姫路ダイヤ冷暖房K.K.勤務。
金川 二郎先生（体育）教育研究所より飾磨
中部中学校長へ。

先輩訪問記

本号の新しい試みとして、先輩訪問記を載せました。白城会員1万3千名と一口に言いましても、その構成を縦に見ますと、若い西高卒業生にとっては、まさに「親と子」「祖父と孫」といった世代の隔たりがあるわけです。しかも、その「親父さん」「祖父さん」であらせられる先輩が、すべてそれぞれの立場において、確固とした見識と実力をもって立派な社会的貢献をなさていらっしゃる姿を知って、若い後輩達はかねがね「もっと親しく接してみたい、そして御指導を賜わりたい」と願っていたわけで、企画は若い後輩達のそういう熱願によって生まれ出されました。世代の相違を超えて、白城会全員の一層の融和と、互助啓発の道のいよいよ拓けんことを祈る次第です。なお、この企画は今後も続ける予定でありますので会員の皆様の御協力をお願い申し上げるとともに、今般、後輩の訪問を快く受けて下さいました五先輩に対し、ここに衷心より厚く御礼申し上げます。

(編集部 橋 義康)

牛のごとく粘り強く

三日東京支那科学技術振興財團副會長
菱樹脂株会長

桑田時一郎氏を訪ねて



訪問者 東大理一 文一

神辻 恵子 (西一六回卒)
神宝 浩 (西一七回卒)

か?

「そう…私が一高に入学した時、明治天皇

がおかれになつて、入学式が延びました。私の二年上の先輩で都築さん、森本さん、二人が一高へ入られたのですが、これが両方とも医科、文科に一番でバスなさった。：一つ

の中学から二人も首席で入ったのですからねえ。一年上は誰も入りませんでしたが。当時は三月卒業して半年たらずして入試、九月から高校が始まる。その間、受験勉強ですね、予備校に入った。東京人が最初何か偉く見えたのですが、授業は大したことありません。

あれなら家でやつた方がましだ—それでも半月位行つたかなーで、自分で勉強しました。でも試験が近付いてくると弱気になりましたね。母に、止めようかと思う、と手紙を書いたところ、母に叱られましてね、お前は試験を受けてもみずく止めるのか?と。受けた見

つたが、夕方になるとややのぎやすくなつた。交番で聞いた通りをたどつていく。静かな屋敷町。すぐ見つかる。

「桑田時一郎」—表札を確かめる。姫中第二十三回生。六月十一日、世田谷区玉川上野毛のお宅を訪ねた。

呼鈴を押す。品のいい和服姿の初老の女人—奥様—が出ていらして案内して下さる。奥様も姫路出身、氏とは家が近所で幼なじみだった由。

静かで落ち着いた洋間。氏の背後には懲罰椅子越しに夜の闇が口を開けている。戦争や今日の世界情勢のことから西洋人、東洋人の感覚の相違などへと話がはずんだ後、「姫中第二十三回卒とおっしゃいますと明治の終り頃です

ると三番で通っていました。席順で発表なんです。下からずーっと搜していって。」

一高では、賢く固められた一中出身者と礼儀作法の喧嘩らしい四中出身者はすぐ見分けがついたという。「で、姫中は?」

「田舎の人間は純朴ですよ。小利口じゃないけどその方がいい。鈍い位の方がものになります。こせこせしていない、田舎は。」

「今姫路西はどうだろうか?」「姫中の教育は…?」

「私は日本史講の先生が大好きでした。クリスチャンでしたが…。ちょっと出歯で、こんな様子で(と、氏は腕を体にひきつけ、龟を這って示される)おかげで出歯亀とよばれましたね。皆はその先生を好いてはいませんでした。私は、その先生が授業を始められる前にちょっと處世訓みたいなことをおっしゃるんですね、それが非常に好きでした。歴史は特に好きじゃなかったですが。年に

一回、姫路と加古川の間を往復して競走する行事が全校挙げて行われるのですが。その先生は体がこんなにすから、丈夫な方でもスポーツが出来るという方でもないのですが、タツタツタツタツ、牛のよう最後迄走られて先生方の中では一番でした。人間、やろうと思



やるなら力一杯、真剣に

名古屋支部長、二六回卒
名古屋鉄道KK副社長

竹田直氏を訪ねて

訪問者　名工大
牛尾正宏

(西一七回卒)

六月十八日午後
卒業後、姫中、三高、京大の経済学部へと進み、現在名鉄の副社長として活躍しておられます。お会いするまでの太った、いかめしい人、というぼく達の予想に反し、中年としてはほぼ標準の体つきの方でした。

えば何でも出来るんですね。こうして頁を繰り乍ら(なるほど手元から繰らずに頁の上部を持って繰る一風變つて繰り方だ。)そうして後すぐ授業に入る、こんな調子です。中学生時分は人生問題に深刻に悩んだりするでしょう。こういう問題、誰に打ち明けたらいいだろ?受持の先生もちょっと…。やっぱりあ

の先生に、というわけで原稿用紙に十枚位書いて持つて行きました。やはりきちんと返事を書いて下さいましたよ。氏の目は再び忘れ得ぬ人々の姿を追う。出歯亀、小学校時代の先生:等。

「人間は才走っていて小利口なだけではも

のにならない。二十年間、一つのことをやらないと何もわかりませんよ。又、二十年一つのことをやって御覧なさい。必ず成功するから。器用貧乏、これは駄目です。自分の面白いと思ったことを、とことん迄追求しない。そうして、正しく強く。」と。
幾重にも重った螺旋の上を時の函数が進んでいく。絶対者の目には既知函数なのだろうか…夜の帳を縫つて流れるネオンの光彩。電車の中で、氏の言葉が聞えてくる。「自分やりたいと思つたことをじっくり追求していきなさい。」と。

話のしやすい、気さくな、明るい人だった
のでぼくらもたいへん助かりました。

小学校のころ好きだった学科は算術だった
そうです。又「そのころ、何に成りたいと思
われましたか。」との質問には「あまり昔のこ
となので…。」と茫漠たる面持ちでした。

昔の姫中は、今の西高と同様に、服装にう
るさく、ちょっと町へ出るのにも、ハカマを
はいていないと先輩に叱られたそうです。ま
た映画館、うどんや等への出入も今の喫茶店
スケートリンクと同様禁止されていたそうで
す。

学生はやはり、キチンとした服装をすべき
で、そうしていると、悪いこともできなかっ
たということです。「キチンとした服装は心
を引き締める」とのこと、このことはぼくらに
も理解できました。

中学校で最も楽しかった思い出は「伊勢へ
の修学旅行」だったそうです。また運動は、
剣道をやっておられました。この剣道は、氏
が、その後に事をなされる際の基本的態度に
大きな影響を与えていたことあります。氏は、
剣道の練習が非常にいやで、中途半端にしかやらなかつたそうです。ところが
後に「いやいやながらにせよ、どうせやらね

ばならぬのなら力一杯やろう。」と決心され、
それ以後万事につけ、これを肝に銘じておら
れたそうです。次に、京大経済学部へ入られ
た理由は「関東大震災で、東京が壊滅状態に
あるのを見て、被害のない、おちついた京大
の方を志せ。」だそうです。学生時代の娛樂
は、今のように「マージャン」「パチンコ」
もなく、将棋、碁（現在五段）玉突、散歩、
登山（比叡山など）ぐらいしかなかったとの
ことです。現代の大学生の政治活動について
は「時代の流れもあり、一概に、よくない
とは言えない」と、若者に、理解のある所を
示して下さった。また「それは、エネルギー
のはけ口的役割をも持っているのではないか
か。」とも言っておられました。そこで、三高
時代の思い出話が出来ました。それは、校長の
進歩的教師七人の首切りに反対して「校長排
斥」の全学園的行動をおこし、全校生が一週
間程の停学を言いわたされたことがあったと
か。名鉄入社の動機については、ただ、お兄
さんが名古屋におられたというだけだそうで
した。入社した頃は、学校で習得した事など
全く役に立たず、いや気がして「名古屋なん
かにいるものか、折あらば満鉄へ入ろう。」と
思っておられたそうです。しかし、昭和十年

頃、名鉄が他社と合併した際、二社を一社に
まとめ上げるのに、社長の秘書として全精力
を傾げ「失敗すれば退社する」という決意を
もって努力され、この難關を、見事乗り切ら
れたそうです。「この間の五年間程が、いま
まで一番よく働いていて、楽しくやり甲斐が
あった。」と言つておられました。大学へ進む
者の忠告として「大学出も、単に偶然そ
なつただけで、格別に中学出と人間に差が
あるわけではないから、大学出であることを
鼻にかけることなく、誠意をもって実直に行
動すべきだ。」と、主張されておりました。氏
には、お子様がお二人、お孫さんもいらっしゃ
るのですが、たいへん若々しく見え、今
後の一層の御活躍が期待され、たのもしく思
えて、私達の人生の一つの目標を見出したよ
うな思いがしました。最後に、後輩への一言
としてお尋ねしたところ「別にないが『何事
にも、熱を上げてやること』『やるなら、力
一杯真剣にやれ。』『やらぬならきっぱりや
めろ！』そしてやる時には『万事において、
さしひきの勘所をつかむことが重要だ。』」と
のことでした。短かくとも楽しい一時でした。
なにかほのぼのと心暖まる思いで帰つて
きました。

現在の一歩一歩を着実に

阪神電鉄社長
二六回卒

野田誠二氏を訪ねて



訪問者 京大法学部

青木伸夫（西一六回卒）
宇惠達弘（西一七回卒）

姫路中学二十六回

卒。八高、京都大学工学部を経て阪神へ。社長歴十五年。

さる六月十四日、大阪梅田にある阪神本ビルにプロ野球阪神タイガースでお馴みの野田社長さんをお訪ねし、運よくお会いすることができた。立派な応接室で待つこと数分、血色もよろしく、堂々とした体躯の社長さんがお見えになつた。入ってこられるなり「何でも聞いて下さいよ。」とまことに先を制される。

姫中といふのは眞面目で、堅い一方の学校、もっぱらスバルタ式に鍛えあげられたそうでマラソン、水泳など相当の距離をみっちり鍛えられなさつたそうだ。氏は寄宿舎に入つておられた関係上、普段歩いておられなかつた

ので遠くから通つてゐる者に比べてハンディキャップがあつたそうだ。その他野球、テニス、剣道、機械体操等を生徒全般がよくやつていたらしい。勉強の面でも高校進学が憧れで、競争率が十数倍にもなつてゐるのでよく頑張られたとのこと。映画、演劇などの制限も厳しく、奇術、浪花節、恋愛抜きの映画など時に許可になる程度。「一大ロマンスは？」とお聞きしたら「さっぱりなしや。」と軽くいなされてしまった。「男女七才にして……」の時代だから無理もない。そういうれば女学生へラブレターを出したことがばれて退学になつた者もいるそうで、現在では信じられぬような話も出される。だからもっぱら勉学武道、運動に熱中していくのも当然で、これからバンカラも生まれてくるのだろう。氏の

交通機関の会社としては事故ということが一番重大な問題だが、氏の会社では連続十期（一期は十ヶ月）無事故で表彰される。それで社会公共事業としての使命を十分發揮されている。また氏自身も紺綬褒章、藍綬褒章について今年の春には勲三等瑞宝章をお受けになっておられる。現代青年のあり方として氏は次のようにお話し下さった。

「現代の青年が常識、一般社会知識に発達していることはよいことだが、資格の獲得が目的になつてゐるようなら問題だ。会社へ入つてきても、働くことよりも享樂を求める一遊ぶ費用をもうける為に働くといった考え方では寂しい思いがする。型にはまらないで、

は二万坪もある阪神百貨店など、傍系会社も多数あり、タイガース、ビルディング、朝日放送、神姫バス、商事などに關係しておられ、また国鉄の民間代表の委員としても躍躍している。タイガースの野球もよく見に行かれる。そうだが、ボンヤリ見物するのではなく選手の内容觀察を細かくやられたり、ゴルフでも協会の役員になられたりして、すべて仕事がつきまとうようだ。忙がしいことがクセのようになつておられ、全くタフな社長だとお見うけした。

個性の豊かな人間になつてほしい。」

またさぞかし、社長にでもなつてやろうと
大いに努力されたのだろう、と思つてお聞き
したら氏は元来のんき屋らしく、別に目標と
いうものを前に大きく掲げないで、ただその
場その場をこつこつと努力されたとの話だ。

「現在やつてることに集中、努力すること
が大切だ。ちょうど山登りのようなもので、



人から信頼される人間になれ

大和紡績社長
二八回卒

瀬戸直一氏を訪ねて

訪問者 京大法学部 青木伸夫（西一六回卒）

宇恵達弘（西一七回卒）

姫路中学二十八回

卒・神戸高商を経て大和紡へ。社長歴三年。

六月十五日、お忙

がしい日程をさいていただき、大阪御堂筋にある立派な八階建の大和紡績株式会社ビルでお会いすることができた。何分御多忙中でもあり、面談は一時間足らずで終つたが、以下はその要旨である。

現在を一步歩着実に登つていったらいつのまにか頂上へ着く。上を見てまだずい分ある

と落胆したり、下をみてよく登つたと慢心したりしないで現在のこと一生懸命になることだ。氏の長い経験からじみ出たこの言葉がむやみと私の印象に残る。

現住所、西宮市清水町十四（TEL 西宮②一〇五六）六十八才。

——現在では概して受験勉強に追われるような状態ですが……。

昔はそういうことはなかつた。試験前にはよく勉強したが、まあ平々々々の生活だったようと思う。今のような社会組織はしかたないのかかもしれないが、高等学校はもつとのびのびと人間を造るようにしないと、型にはまつた人間しか出来ない。

——ではどういう人間を期待されますか。
(即座に)そりや、人に信頼される人間だよ。

——戦争などで特異な経験をされたと思うのですが……。

戦争は大変だつたね。全国に二十ばかりもあつた工場も平和産業ということで、取りあげられるし(姫路にも工場があつたそうである)本社も焼かれるしで……。実際有為転変だつた。戦後、私は金融、営業面を主として担当ってきて、まあ今では全国に十工場、従業員も八千人位までになつたが。

——新入社員の方など若い人達には、よくどういうことを話されますか。
まず何でもいいから本を読む習慣をつけること。学生の時には一生懸命読んでいた人

でも卒業するとやめてしまうからな。それ

から語学の力、特に会話の力を養うこと。

現在では日本の国際的地位もあがっている

ことだし、海外へ出ていく必要もどんどん

でできている。ラジオやテレビなどいくら

でも機会があることだし、これは学生時代

にもしつかりやつておくべきだ。最後は健

康に気をつけること。この三つだな。

—会社という巨大組織では特に気をつける

べきことがあると思いませんが……。

学校の知識というのは、すぐには役に立た

ないことが多い。会社に入つてからは、し

ばらく辛抱しておかなければならぬ。あ

まり自分の個性を強調して自分を認めさせ

るようにしてはだめだ。やはり辛抱して人

に好かれるようにしないといけない。

時間が短かかったのは残念だがしかたない。

趣味のゴルフは日曜日毎に出かけられるそ

で、一万ヤード余りも歩かれる。健康の為で

もある。もう十五、六年になるとのお話を

った。またバラ造りは若い頃からなさってお

り、毎日世話をすることは樂しみにされている御

様子だった。勝負事はやらない。お酒は?と

お聞きすると「適量だよ。」とあっさり逃げら

れてしまった。

いわゆる一般に言われる社長タイプの人で

はなく、スマートな人である。

現住所、堺市浜寺昭和町五ノ六四一（TEL
堺⑥九一七）六十五才。

関係で毎朝五時に起床、姫路駅から学校まで

单語帳片手に通わたるという。

「当時の校風は厳格そのものでしてね。下級

生は上級生に對して絶対服従。敬礼をしない

といつては、ぶん殴られる始末でした。」

風紀委員というのがいて下級生で生意気な

奴は呼び出しをくらい上級生数人がかりでこ

づきまわされたそうだ。今なら、さしづめ「

リンチ事件」として新聞紙上を賑わすに備す

ることだが。諸先生もこれに劣らず厳格で、

まるで軍隊方式の教育のやり方だった。生徒

を殴るのが趣味（？）のような先生も居られ

たとのこと。

姫中四年の時、ちょうど創立されたばかり

の姫高へ進学された氏だが、経済的な事情は

そうやすやすと進学を許してくれはしなかつ

た。「当時は百姓で進学するものはなかつ

ですよ。中学校へ行つた者ですら、私の小学

校からでは私を含めて二人でしたからね。」

成績の上でトップを占めていた氏は、他の

連中が大勢受験勉強に取り組んでいるのを横

目に、くやし涙に暮れていた。しかし氏の秀

才ぶりを惜しんだ当時の横田校長が、校長室

に氏を呼んで熱心に聞いたされた。

「どうして受験しないのか。あとはなんとか



やりかけたことはやつてしまえ

京大文学部長
三十六回卒

井上智勇先生を訪ねて

訪問者

京大経済学部 神戸 啓守（西一四回卒）
京大法学部 宇 恵 達 弘（西一七回卒）

メガネの奥から注

がれるやさしい眼

射し、穏やかな口

調、部長室を訪れ

た我々は先輩から

躍をされていた時だった。

姫中時代の氏は加古郡から通学されていました

まず親しみのこもった柔軟感を感じ取った。

なる。受けるだけでも受けろ！」

この校長の言葉に励まされて氏は受験の準備にとりかかる。時に一月十五日、入試まで二ヶ月余りしかなかった。

「こうなつたら是非でもパスしてみせる。校長の手前、失敗したら腹切る覚悟でしたね。」日付まで正確に口にしながら当時の模様を懐しげに語られる。受験勉強中は睡眠時間短縮をはかり一日四時間から五時間。時間通り目を見ますためにいろいろ工夫をされた。

「机の上に目覚し時計を入れた金盥いを置き目覚しが鳴り出すと揺れて、丁度顔の上に落っこちるように仕掛けたり、体にヒモを結びつけて隣室の者に引つ張って起してもらつたり……。」「事実、時計が顔の上に落ちて前歯を破損したこともありましてね。」こう言つて笑われた時のぞいた金歯がその実歴を物語っていた。だから現在の受験勉強の激しさについても、当然のこと、こういった競争はいつもあることだと、極めて明確に割り切つておられる。ただ、今の西高の予備校化について話した時、昔は受験勉強は個人がやるべきものであつて学校側は全くおかまいなしで至極のんびりしていたと語られた。

姫高からは京大の文学部へ。

文学部へ進まれた動機について――

「当時の世相からみて経済界は不安定、政界をみれば政友会と憲政会の泥試合でしたからね……。ただ小さい頃から先生には成りたかったです。小学校の頃は小学校の先生に、

中学の頃は中学校の先生に、高校になれば高校の先生に憧れを抱いていました。しかし大学の教授になることだけは考えていませんでしたね。昔は教師という職業は、それほど厚待遇を受けていた。当時京都では「府知事か師団長か、それとも京大教授か」と言われたものだったそうだ。

「昔の教授は、女中の一人もおけたものでしたよ。ところが今の為政者は、教育重視は大いに強調するが、教育者をあまり重視しない」と現状への不満。「だから最近の大学教授をみても基礎研究をせずに大衆迎合をもつぱら計つているような傾向にある。私は常常自分の土俵を出るな」ということを言つてゐる。大学の低下を招くのは教授自らの腐敗に因ると考えねばならぬ。」と最近ジャーナリズム界に進出著しい教授連への批判もちよつ

と断固反対。文学部教授会でも反対の決議がなされたそうだ。

最後に氏がモットーとされること――

「中学の時体操の時間だったな、皆が並んで倒立をする時だったんだ。私は級長だったから、号令をかけた後、皆の後から倒立を始めようとしていたんだ。その時集合の合図があつてね。私も途中で倒立をやめて集まろうとした。その時体操の先生が言われた、『やりかけたことはやつてしまえ』。この言葉が氏の一生を支配したという。やりかけの仕事を途中で止めて他の仕事に移ろうと思つた時、いつもこの言葉が脳裏に蘇えてきた。『先生にすれば、なにげない言葉であつて、言つたことすら忘れてしまわれているんでしょうが……。』教育というものは要するにそのよう

なものだと氏は言われる。「生徒の受け取り方一つだからね。馬耳東風じや仕方なし……。」話の途中で電話がかかってくる。「事務長からだ。四時に会うことになつてたんだが……。」と笑いながら……。

時計は既に四時半をまわつていた。

氏は間もなく学術視察団の一員としてソビエトに赴かれる。自己の研究と、学部長といふても「大学を一般教養の場とし、均一化された学生を多量に産み出そうとしている。」

特集 座談会 母校戦中戦後の歩み (その一)

<出席者> 司会者 石坂豊明（本校教諭・48回卒）

旧師 尾田 龍先生（校外理事・美術担任・36回卒） 福永 利一先生（本校教諭・数学担任） 長谷川 隆吉先生（本校教諭・国語担任・40回卒） 名倉 二郎先生（本校教諭・生物担任）

卒業生代表 内山 孝一（姫工大助教授・57回卒） 林 幸雄（染色業・58回卒） 大塙 俊次郎（58回生幹事） 吉野 克己（大鉄管理局・59回卒） 田中 五六（日纖工業KK・59回卒） 高倉 基裕（酒類販売業・西1回卒） 柳井 隆（飾磨高校教諭・西2回卒） 石田 勉（製鉄化学・西2回卒） 阿部 志奈子（岩井

・阿部たんす店主婦・西2回卒） 山田 晃子（坪田・紅屋時計店主婦・西2回卒） 藤本 美智代（河野・本校事務室・西2回卒） 永井 敏（牛尾工業KK人事課長・西3回卒） 山崎 昭子（山崎医院医師・西3回卒） 藤戸 あゆみ（黒田・網干幼稚園教諭・西3回卒） 木村 守男（姫工大講師・西4回卒） 中尾 多美子（井上・東小学校教諭・西4回卒）



座談会風景（於 西高校長室）

編集部

橋 義康（本校教諭・58回卒）
末道 久美子（本校実習助手・西4回卒） 鳩川 晏弘（本校教諭・西9回卒）

石坂 わたし四八回卒業で石坂と申します。西高一回からの方にはご存知いただいているのですが、五七回以降の姫中の方には始めてお目にかかる方もあるかと思います。実は今日、司会兼録音技師を命ぜられて二役を致すことになっております。

去年お手もとにお送りした白城会通信第一号はその特集と致しまして、姫中の一三回卒業生で長く私たちの先生をしておられました。また私たちが集るたびに歌うあの「鷺山に秋の」という応援歌を作られました栗田先生をお聞きしまして姫中の古い時代の話を伺いし、皆さん方からたいへんお喜びいただいたのですが、続く第二号の特集として、そういう古い先輩も知らない、そしてまた現在の新しい卒業生も知らないこの戦争の前後のいろいろの懐い出話を、ちょうど今年が戦後二十年に当りますので、これを一つの契機として話し合い、それをまとめて載せねばきっと皆さんのご好評を得るのではないかと、そういうわけでこのような企画をしたのであります。大いにご意見や思い出話の花を咲かせていただきたいと思います。

五八回の方が入られたのは昭和十七年大東亜戦争のはじまりました翌年で、以来その戦

争中の、他の年寄りも若い者も知らぬ経験をなさったと思いますので、その戦争中の学校生活を、少々先生の悪口を云つてもらつてもよろしいから気楽に話して下さい。

苦しかつた勤労動員の思い出

石坂 あの勤労動員の頃、学校の授業は全然やらなかつたのですか。

林 いや工場で週一時間位ワイワイいいながらやりました。

石坂 何年の時から動員に行かれました?

林 五八回生は三年生になりましたが、もう行けということで、あの網干の大セルと日輪ゴムへ行つたんですがそれが七月です。今と違ひましてね、昼夜と交代で昼夜兼行ですわ。十二時間労働ですね。

尾田 貴方がた二人共大セルですか。

林・大塙 ええ。

田中 五九期は須鎧へ行つたんです。

石坂 須鎧? 須鎧で何したんですか。

高倉 飛行機に積む弾をね。漆に負けたり旋盤に手をとられたりね、不幸なものも出ましたですわ。

石坂 二回の方は女学校のときに勤労動員

に行かれました?

山田 はア、二年生になつてね。

石坂 貴女方二年生といつたら昭和何年ですか。

山田 二十年です。

石坂 三回生は全然行かずですか。

藤戸・山崎 ええ工場へは行かずですがね。入学して来てすぐには学校が焼けて、六月二十二日に空襲がありました。それまでは学校の烟をね、芋や何とかと作りました。(笑)

石坂 芋をね。(笑)

藤戸 さつま芋のじくを食べるといふとか栄養教育も受けました。

永井 私ら農家へ麦の刈入れの手伝いに行き、そこで教練をやられたりしました。麦刈りに行きましたが工場へは行かずです。

石坂 ああそうですか。

永井 上級生の方もちょいちょい帰つて来られて教練やられていたのを覚えていますね。

石坂 そうすると学校は殆どガラ空きですね。

長谷川 ちょうど今五八回の方がおっしゃつてましたが、それはもとの姫路の県立女学校でいいますと三回生です。私が微力で学校でいいましたが、それは主に生徒と出勤しました。そしてあの時、生徒の出席率をよくすること、それから仕事の能率を上げること、それから健康維持ということ、事故の

でしたかな、動員を行つたのは?

内山 早々でしたね。

石坂 昭和十九年ですね。

福永 昭和十八年の六月頃でしょう、動員部行つたのですね、五七期の人は三菱電機と

飾磨の浅田化学との二つにわかつて行つたんですね、そして行く前に会社の人に学校へ来てもらつていろいろ打合せをしてその間も授業をするということだったんですけど、授業する場所もありませんし、とにかく教練の教官がやってきてやるぐらいのことでしたね。

それも毎日じゃなかつた。浅田化学ではトロッコ押しとか全く土方みたいな仕事ばかりだつたですね。三菱電機の方は仕事らしい仕事があつたらしいんですけどね。

ないようになると、それらを会社と交渉してうまくやってゆくのが付添教師の任務であるということになっていたのです。私たちは

「姫中はなかなか頑張っているらしい。県女も負けんように頑張ろう」ということいろいろと努力しましたが、ほんとに生徒はよく自覚して頑張ってくれました。そういう関係で付添教師として県下で表彰があった時に、私も微力ですけど姫中の増山先生などと一緒に優良付添教師として末席に加えられまして行つたわけです、いずれにしても先生も生徒も本当に大変な時だったと思います。以上申し述べましたのは、姫中五八回生が即ち県女の三三回生に該当するし、勤労動員で各工場へ分れて行つて、姫中県女それぞれの立場でそれぞれ自覺をもつて頑張つたんだという点を申すために発言したわけです。

石坂 一番動員の被害の大きかったのは五七回ということですね。

福永 可哀そうな学年だと思いました。物資の不足なときですからね。この学年は卒業アルバムは無いしね。クラス全部で撮った写真もない。だから思い出になるものは今探しでも全然ありません。

尾田 いやそれですね。さつきも話をしても

いたんですけど今の石川島播磨へ動員されたのは何回ですか。

福永 五六回です。

尾田 五六回ですか、あのね、その人達が働いているところを絵に描いたのが倉庫から発見されましてね、そして今図書館にあるんです、それは吉田博という今の日展の前身ですが、それは吉田博という名前でしたが不幸な帝展の審査員ですが、その人達が絵描きの勤労動員ですね、つまり美術報告会か何かを作つて、そして各工場へ行つて学生達が働いているところを絵に描いてそれを学校へ贈る藤先生に聞きますと、その回の生徒達はそんなものがあるということを全然知らないということです。これは非常に貴重な記念品だと思います。（同感の声）

石坂 学校の半分を勤労動員で過され、それも十二時間労働ということだったんですね。非常な苦勞があったと思うんですがね、ひとつその苦勞を話して下さいませんか。あなたはどうちらへ。

林 綱千の大日本セルロイド。

石坂 大セルでは苦勞したんと違いますか

福永 そうですね。

田中 雪の日は二十年の二月の末時分ではなかったですか。

してね、姫路から電車に乗れば今の大ラッシュどころやないんでね、大変でしてね、彼は西鉄磨から網干へ乗りまして電車に乗り遅れると皆の志気に影響する、一杯の電車に座るどころやないんで、くらいいついて乗つとつなんです。それが夢前川の駅で落ちましてね、鉄橋の上で、前川君という名前でしたが不幸な目に会いました。すぐに死にました。帰りに空襲にもあつたり電車が動かんようになって網干から悠々と姫路まで歩いて帰つて来たりね、大変なことでした。

長谷川 同じような事故が県女の三三回生にもありました。雪の降つた日、帰り途に夢前川の停留所で雪のためかすべて線路に落ちて足を狭まれて切断され亡くなつた生徒がございました。実はこの三三回生の同窓会が先日赤穂でありましたんですが、今話にも出たように写真がないもんですから持つて来たのは工場で写した動員中の写真で「やあ、亡くなられた河田さんが写つとつてや」と言つていろいろ動員中のことを思い出し感無量でした。あの時分は工場へ通うのすら大変でしたね。

長谷川 二十五日です。二月二十五日。大雪でした。

田中 五九期がちょうど福崎へ壕掘りに行かされたんです。弾薬などを隠す壕ですね。その帰りに列車が大雪で止ってしまってね、鎧磨まで走って帰ったんですよ。

藤戸 大変ですね。今の子でしたらよう走らないわね。

田中 ちょうど一月頃から皆勤労奉仕に行きました。三年生になつてから須鎌の方へ動員で行つたんですが私は動員は逃れたんですけど。三月に予科練の方へ行つてしまつたんで動員の経験はないのですが同級生は大分苦勞したらしいんです。

強かつた軍国主義の風当り

石坂 予科練の話はどうですか？

田中 甲種予科練で高知へ行つたんです。

一年生の昭和十九年頃に岡部校長先生が「姫中は陸軍士官学校の予備校である。陸海軍の

学校へ極力行け。」ということでお五十六期や十五期の方が半強制的に予科練を受けさせられたことを記憶しているんです。私なんか勉強できなかつた方ですから、同級生のえらい奴は皆幼年学校とか兵学校の予科ぐらいに行

きました、やんちゃ者の連中がまあ予科練へ行こうかい、学校におつたつて動員やし、どうせ勉強せんのやからというようなことで予科練へ行つたんですが…。

高倉 あの時分にやつて入校訓練といふのはいつ頃はじまつたんですか？私達もやらされましたよ。

田中 あのね、中学に入学した時一ヶ月ほどやつたですか。朝礼を受けた後、教練の基礎みたいな訓練を受けたんです。最上級生の五五期の方が、各クラスに二名ずつついて指導を受けましてね。

高倉 その入校時訓練というのは丸一日直立不動の姿勢で校庭のぐるりをとり巻いて立つとるわけです。そしてぐらぐらしたらピシヤッとやられて一步前へ進んでね（笑）そらつらいものでした。いつ頃から始まつたのか僕はつきり記憶がないんですけどね。

福永 多分動員を行つとつた後の話じゃないかなあ。

永井 軍人勅諭を一週間で覚えてしまふと言われてね。弱りましたよ。あれは。私中学へ入つた時、一組の副級長で入つたのですがね、級長の奴が覚えてしまつてね、驚いたですわ。五箇条だけじゃなくてね全文覚え

させられました。その映画になつたということが、それから陸士・海兵で恩賜の軍刀をもらう中に大抵姫中のものが一人おるというところで盛んにやらされました。

尾田 そういううきつい事をやつたというのは末端地方に行くほどきつくやつたらしくね。僕はその時分東京にいたのですが、東京の学校は割にのんびりしているんですよ。こちへ来てそういう話聞いて驚いたんですけどね。

林 その時分ブルさんいうてね、配属将校がいたんですよ（笑）当時の岡部校長以下生徒もそういうきつい圧力に幾らか皆反発して、やはり文教中心の中学であるということをかれも幾らか残つておりました。

石坂 その岡部校長が大へん氣骨のある人で教育の主権を持つどのはわしだ、というて配属将校と渡り合つたとかいうことを聞いていますかね。

福永 予科練の話がさつき出ましたがね、とにかく人員何名というはつきりした割当てはなかつたけれども予科練の方にたくさん送れと軍の方から云つてきて、そして生徒に個別面接するわけです。そして「君は予科練に行かんか。」というわけです。その時分、軍人

になれと云われた時に「なりません」と云う

たら非国民のように言われるし、自分自身も

精神的にひけ目を感じるというところが国民

一般にあつたわけですね。それで面接して「

予科練へ行かんか。」と言わると、一応「家

に帰って相談します。」ということになるけれ

ども家へ帰ったところで「お父さんが反対し

ます。」といふことも言えませんしやむを得ず

「行きます。」という承諾の印を捺さされたも

のがかなりあります。それでまあ予科練行き

たくない人でも行かねばならなくなつた人が

できたわけですね。その配属将校が今から考

えるとちょっと狂的やないかと思うようなは

げしい所がありまして、軍の名前を參に着

て横車を押したところがあつたわけですね。

ある事でね、生徒の傷害事件があつたのです。

この傷害事件のあつた時に、校長が「最後の

けじめは私がつける、私にまかしてもらいた

い。」と言つたことがある。私もその時偉いと

思いました。かなり信念のある人だと思いま

した。

林 その当時の社会の状況から考へてかな

り気骨があると思いますね。とにかく野球を

やつても英語をしゃべつたらいかんいうので

すからな（笑）ストライクと言えんわけです

よ。なんかファールやつたら「邪球」言いま

したかな。（笑）

大塙 ストライクのことをなんか「よし」

本」とか言いよつたな。（笑）

定かならぬ終戦日の記憶

石坂 動員中の苦労話次々と尽きないわけ

ですが、それで終戦の詔勅をどこで聞かれた

か、その時の実感というようなものをどなた

か聞かせていただけませんか。

永井 学校に残っていたわれわれは、ちょうど夏休みでしたね。

石坂 ああそうですか、夏休みですか。

山田 私自分の事よりも兄がちょうどここ

の五七回生で旧制の姫高に行っていましてね

昼頃に帰ってきて私に「表に出ていろ。」

と言いました。それで、私なんのことやると

私は全然知らされなかつたわけですが、帰

ってきてから上着を脱いで放り棄てて畳の上

でごろっと仰向けになつて寝て、泣いていた

のか怒っていたのか知りませんけれど、そう

いうことを覚えてますね。自分自身は後か

ら終戦のことを聞かされてどうなることかと

思つてお友達の家へ行って学校へ行ったよう

り兄の方がよく記憶に残っています。

藤本 戦災にあつたので田舎へ疎開して父

と防空壕を掘つておりました。殆ど出来上が

た頃、向いの家のラジオから「君が代」が聞

えるので今頃何だろうと走つて帰りました。

放送が聴こえにくいので何の事が私はわから

なかつたのですが、あとで父から説明をきい

て、敗戦ということは勿論でしたが、せつか

く濠を掘つたのと口惜しがつたのをはつき

り覚えています。

石坂 勤労動員に行ってた人は工場で聞いたんですか。

田中 あれは八月十五日でしたね。お盆で

僕も家にいたと思います。

林 二、三日前からなんかおかしかつたな。

もうばつばつしまいやぞいうニュースが流れ

ていきましたね。

尾田 それに工場も材料がなくて休んだよ

うな状態やなかつたのかな。

高倉 家なんか焼け出されてバラバラになつた感じですね。

石坂 戦災は七月三日から四日でしたね。

それで大部分の人が被害を受けてだめだったですね。

お粗末な教科書で再び学校へ

石坂 それから進駐軍がやつて来て教科書なんか検閲する過程になるんですが、そんな時の色々の話があるうかと思うんですが、どうなたか。

尾田 それは墨でここを消せという指示が来たんですよ。あなた方二回生は消された方でしよう?

藤本 四回生の方が小学校の五年か六年の時に消されていました。

木村 私小学校の時に消した覚えがありますね。一番よく消したのはやっぱり歴史でしたね。

長谷川 教科書は薄いバラバラの教科書でしたね、それをとじて使いました。

田中 中学校の昭和二十年、二十一年時分は教科書という教科書はなかつたですね。ただ英語の教科書だけが新聞紙八つ折ですか、端をナイフで切って、一学期分、二学期分という形でくれたのを覚えてます。

名倉 それは英語の教科書ですか。

田中 はいそうです。後の教科書もそういう形でばつばつ出てきました。

名倉 昭和二十一年に私がここへお世話になりました。

なった時分、理科なんか薄っぺらな分冊になつていました。

尾田 そうだった。順番に綴じろというんでしたね。

藤本 私たち一枚紙に印刷されたのを切つて表紙をこしらえ糸で綴じました。

大塙 私はっきり記憶はないんですけど、戦時中の二年生頃に英語の教科書の表紙を墨で塗られたことがあります。敵国語というわけですね。(笑)

藤戸 私達終戦の年に教科書ははじめから学校では買えなくて、いとこが今の琴丘高校(市立女学校)に行っていたのでそのいとこの教科書を貰いました。女学校全部一諸やなかつたかと思います。

石坂 そうかも知れませんね。

藤戸 そんなんで県女だからどうということもなくみんな同じだなあという感じを受けました。

悲喜交々の東西交流

長谷川 これもこんな座談会があることがわかつておればもっと詳しく書いておくのですが(日記を手にして)ちょうど昭和二十三年の六月二十五日の日記を見ますと「金曜日、暑り、姫中の合同職員会により、両方(東西)に分かれるメンバー決定。ここ数日来、交流委員会二回、交流協議会二回、両校の間にあり、いずれも出席」こういう風に書いてあります。その当時、両校においてそれが交流の委員が出来まして、私、県立女学校の委員の一人として参加したわけでございまして以上のようない記事を書いております。これから見ますと、六月の二十日頃から当局の指令によって姫中と県女は先生も生徒も物も半分に分けてそれぞれ新しい高等学校になる、そういう指令がきましたために、両校でそれぞれ交流委員会を作つてやつたものだと思われます。先生はどういう風にして分けるかと言いますと、同じ教科の先生で月給順に一番高いものとその次の者とが籤をひく、以下そういう具合にしました。生徒の方は経験

者があられますから後で言つていただいたらよいと思いますが、女学校の方で申します

と、多分各学年の各クラスでそれぞれくじ引

きによつて分かれてそして学年として両方に

分れた、それから西か東かくじ引きして最後

に分かれたと思います。それから物の方は、

生徒と先生の折半をまずしておいてから、貰

つたり送つたりしてあわただしくやつたとい

うように記憶しています。なお六月二十九日

の記録によりますと、県女ではいよいよ七月

一日をめざして西高と東高とに分かれるので

六月二十九日に解散式をやっています。それ

から和楽会、これは先生の会ですが一西、東

に別れる先生方の最後の会をやつたわけです。

大体以上のような記事を簡単に残してお

ります。尚その後西東に分かれたものがどう

したかということについては、また話題が出

ましたらその時お話をしたいと思います。特に

男女共学の問題は当時注目の的でして、いか

に事故なくしてやつていくかということに両

校の先生方に苦労しました。先生だけでなく

民主的に生徒の代表ともちゃんと話し合いま

した。その記事を私ここに残しております。

石坂

高等学校が出来たのは、高倉君らが

姫中を一応卒業してはじめて西高の一回生と

して残つたのでしたね。

高倉
はい。

石坂

それからくじをひいたわけでしょ

すからよかったですけど（笑）養子に行つ

た連中はそらくやしい思いをしているやろと

思いますわ。僕はその時西高に残ったからそ

の当時のこと余りはつきり覚えてないんです

が恐らく東高へ行つたものはその時のこと

絶対忘れずに覚えているだらうと思います

ね。

尾田 姫中の方は一人一組でくじ引きした

んでしよう?

永井 そうでしたね。僕ら西だったもんで

わあーと喜んだままですわ。WとEが書いて

ありました。前の教壇へ行つて「これ」言う

て引いて「Wや」「Eや」言つてそれで決ま

りましたがね。

石坂 簡単に決つてしまつたんですね。

尾田 女学校の方はさすが女だけあって複

雑やつたんです。姫中の方は簡単に決つたよ

うですね。

永井 それより前に、何か自治会の方に問

われましたね。ホーム・ルームですか、そこで絶対反対という決議をしておつたんですけど（笑）それはもう絶対反対ということでした。ところが決まるとなると一ぺんにカタカタと決つてしまつたようです。

案外嬉しかった男女共学

高倉 とにかくね、男女共学になつたこと

で男は案外嬉しかつたんですね。（笑）当座

皆夢中になつてしまつてね。（笑）まあ案外

トラブル無かつたでしれどね。

尾田 あの頃の学生である今は上級生、下

級生の間、あるいは同級生の間で案外結婚し

たものが多いでしょう。最近よりも多かつた

ですね。

高倉 そうそう。珍らしかつたんですよ。

（笑）僕はね、第一回の全校委員長していました

でしょう。それでね、一番最初によく走り廻

った用事というのがね、おもしろいんです

よ。工業学校が男女共学じゃなかつたでしょ

う。播但線で帰る女の連中があそこの前を通

つて帰るわけですね。すると女の子をひやか

すわけですよ。そうすると僕らがナイトの気

分を出してやね、底いに行くわけですよ。（笑）よう喧嘩しましたよ。工業の生徒がひや

かしている。今度は西高の男の連中がやるわけですね。

そうして、いたら八木先生、あのキヨッポがやって来て「馬鹿野郎」というて叱られて、そりやおもしろかったですよ。（笑）

石坂 あの、阿部さんや山田さんね、女学校の先生と別れる時のこと何か思い出しませんか。西高へ来た当座つらかったんじゃないですか。

山田 ええ、とてもつらくて東高へ泣いて帰りました。（笑）

阿部 学校がとても汚いので最初は悲しかったですね、むこうは校舎が兵舎の跡でしたけれど、みんなたいへんよく光らせていたんですね。それがこちらへ来たら階段がちびてしまって、びっくりしました。そのうち馴れてしまいましましたけど。

藤本 お掃除の時、水を撒くのにびっくりしてしまいました。（笑）それから私は共学になるのがもう恐ろしくて女学校の校庭に大きな木がありまして、その木蔭で泣いたというような詩を作りました。

藤戸 私一学年は完全ミックスだったのですが、ホーム・ルームが決まって男が一列女が一列に並んで前も後も完全にミックスになるので、碁盤の目のように配置され

いました。

高倉 第一期生はね、男子と女子と別々やつたんですね。それで壁に穴をあけてね（笑）それで埋めておくと、またいつの間にかいいていてね。（笑）

長谷川 もうあの時はね、進駐軍の命令ですね、男がおれば次は女というわけで完全にミックスにしていました。

高倉 なんでわしらだけやらんのや、いうわけですよ。

長谷川 あれはどうなつていたんですかね。

尾田 数が少なかつたんでしょう。

長谷川 なるほど、バランスがとれなかつたんですね。（日記をとり上げ）ああそうですか。

す。高三はね、男が七〇名、女が三十三名です。

藤本 一四四名女が一四〇名、高一は男が七八名女が一五〇名、そしてこの高一が完全ミックスであって今藤戸さんが云われた通りになっていますね。

藤戸 それから別の時に傑作なのですがね私は後の方に並んでいたんです。そしたら女の方が少いのですから、男の間へ女を入れられた通りになっていますね。

長谷川 男女共学については初めてどちらも心配だったわけです、ちょうど七月十七日（土）曇と書いています。この日に東西両校の運営委員会を開いています。そして西高はこの日の十二時過ぎから急に男女別会合をしています。男は男ばかり女は女ばかり、そして生徒の男女共学のあり方並びに寄附促進の意味の話合いをするになり、男子の方は

）それまで緊張していたんですが、男の人からそう言わせてなんかすーと気が抜けてしまって……。それから教室に入りましたら恐ろしいような階段で、なんでこんなにちびたんやると思いました。お掃除の時にね、男の人が机をパーと送ってお水をバサバサとまいてお掃除されたので、まあこれは楽になつたなあとと思いました。（笑）とにかくびっくりしましたね。

中尾 私らお便所のお掃除を男の方と一緒ににしていましたけどね、女の方より男の方がよくしてね、感心しました。

名倉 四回生から完全ミックスだったからね、大分馴れて來たようでしたね。

中尾 だけども、男の方とお話しする時は、入口の戸を開いていうて……。

橋 それは今でもそうですよ（一同笑）

長谷川 男女共学については初めてどちらも心配だったわけです、ちょうど七月十七日（土）曇と書いています。この日に東西両校の運営委員会を開いています。そして西高はこの日の十二時過ぎから急に男女別会合をしています。男は男ばかり女は女ばかり、そして生徒の男女共学のあり方並びに寄附促進の意味の話合いをすることになり、男子の方は

柴垣・八木、女子の方は伊藤・長谷川となっています。（尾田・柴垣・八木・伊藤先生立会の時に以上の点決定）と書いています。尾田先生も立会人となってご出席下さっています。そして「東西両校が双児校として出発してどちらもしっかりした成長をするためには生徒も先生も設備もしっかりせねばならぬということを述べ設備充実のための寄附（はつきりとは云わぬが）の必要をうなずかせ父兄への伝言を依頼する。勿論くじの結果とはいながら生徒諸氏並びに先生方と西高で共に勉強することは不思議な因縁と思う。この気持（しみじみとした、なつかしい親しい気持）を生かしてお互に協力同心しっかりやろう。そしてこの気持を持つことは、決して東校に対して優劣を論ずるのではないということを再三強調する。生徒の理解力に信頼して誤解されはいけないとと思って以上の点を強調し、更に他の先生方とも語る」とこういう記事が残っていますから、余程この双児校として出発したこの東西両校がお互に傷つき合わないよう、ともどもに手をつないでしっかり伸びていこうということを両校の先生方が強く念願したわけです。男女共学において事故が起らないようにと気を使つたわけです。

柴垣・八木、女子の方は伊藤・長谷川となっています。（尾田・柴垣・八木・伊藤先生立会の時に以上の点決定）と書いています。尾田先生も立会人となつてご出席下さっています。そして「東西両校が双児校として出発してどちらもしっかりした成長をするためには生徒も先生も設備もしっかりせねばならぬと

実は私は女学校の方から生徒を連れてここへ来たわけですが、個人的には母校でありますが、先程話が出ていましたように非常に不安があつたのです。しかし心の底ではやはり他の学校と違う、なんと言つても天下の姫中、私の母校が地盤だという安堵感がありました。

石坂 あの頃の女学校から来たものははっきりしていたものだね、高倉君が男の方の代表で女の方は結城範子だったかね、僕は弁論部の顧問をしていましたがね。二回生が一回生の女の子にちりちりしていましたよ。大したものがないましてね。弁論部に八木秀子さんいう方がいたね。しっかりとありましたよ。

尾田 あれは東高一回生でした。

福永 今高倉君が言つたね、女の子の笑つてるもの言わぬとね。あれは多分次の日遠足かなんかがあつてね、行けない者を調べるといつたら五、六人位いたかな、顔みたら元気そうな顔している。「なぜ行かんのか。」言うたら、くすくす笑つて言わない。全然僕はそれ知らなんだ。（笑）くすくす笑つているだけだ、まだわからんのかいってね。

高倉 私が一ぱん分らないことが一つあるんですかね、委員長をしていた関係上生徒大会とかいうのをやりました。皆校庭に集めるんですけどね、ところが女の子が教室に残つてゐるんです。各クラスにかたまって、それで「なんや。」いうわけなんですね。先生に聞いたら「いいんだ、いいんだ。」いうわけなんですね。（一同爆笑）それともう一つ、朝礼台の上で僕が何かするとゲラゲラ笑つんですね、あれが腹が立つてね、僕が曳きぎり出したことがあるんですよ。そうすると僕が授業が終つて帰るところを、ひきぎり出した女の子のグループが校門のところで待つてゐるんです。よ、僕をキュッと睨みつけるんですよ、女の子いうたら熱恋深いと思ひましたよ。（一同爆笑）よう覚えてますわ。

石田 運動会がありましてフォークダンスをやりました。女子に交つてやるのがてれくさいいうので始めのうちは逃げまわつたと思うんです。本番では何とかやりましたが、あの時の気持は今でも忘れませんね、今では懐しいですがね。

高倉 「君出んか。」と言つたらね、当然な顔して怒るんですよ、けんたいみたいな顔しているわけなんですね。

福永 僕らは十五年余り男子ばかりの学校ばかりいたので、そんなことわからんしね。

家内が言ってくれたらわかるのだが：（笑）

高倉 共学になりまして、先生も困られました？

福永 困ったのは言葉づかいだね、ぼろく

そこに言っていたのが、女の子が横に座った場合によっぽど考えてるもの言わないよね。

永井 よそよそしくなりましたね、先生自体が一寸とまどった様子で。名倉先生や神崎先生の授業面白かったんですよ。それが男女共学になつた途端、ピタッと止まつてしまつた。（笑）

名倉 福永先生はその時大分年いつておられたでしょう。私はその時二十二、三才で、恥ずかしいて恥ずかしいて困つたですよ。（一同爆笑）

林 僕はね、八月頃に数学の斎藤先生に会

うたことがあるんですが、「今まで自分は楽をした、嫁さん以外には女は知らんだが、これほどまで女は扱いにくいもんかね、私は年だけいって、こんなに情ないことはない。パツとかましたらシュンとしてものいわんとね、ちょっと汗やかすと增長するしね。

高倉 それに必ず女子には仕返しが来る。女の場合は必ず仕返しが来りますわ。私が女子の子を曳きすり出した日、帰る時のこわ

かつたこと、私を睨みつけて何も言わずに僕のうしろへついて帰つてくるんですよ。何や気持が悪うてね。

藤戸 別にそんなこと全然感じなかつたけ

どね。永井さんどうですか。

永井 別にそんなこと感じなかつたけどね僕ら厳しい学校だったでしょう。

藤戸 ミックスじゃなかつたからよけいやつたんでしょう。私譜曲部の女の方の世話を上級生の部屋へのこのこ入つて行つたりしたのですが、そしたら「三年生のお部屋をちょ

つとあれ見てみ。ごろっと穴があいて」と言われたんです。「なんで」と聞いたら「これ蓋しておいたらまたあくんや。男の子が覗いてんや。」と言われ、その時びっくりしました

高倉 ラブレターのやりとりいうのは面白かったですね。とんぼの尻尾にラブレターをつないで授業中やりよりました。先生ほつたらかして帰りよる。（笑）

長谷川 高倉君、男の子が飯野校長先生にね、女の子にばかり親切にすると大分文句を言っていた時代じゃないですか。それが証拠に「九月三日、女子専用便所構築。費用は約二十万円余」と書いています。校長は女子の

ことばかりしているという声を聞きましめたね。名倉 そう、飯野校長先生は女子の設備うんぬんとよく言つておられたね。

福永 女子の設備がなかつたのだから、こしらえるのがあたりまえだな。

長谷川 授業の方は、進駐軍がディスカッショーン、討論式にやれと言つて来て、私も言われた通りに、男女向い合わせてやつたんです。先生は横に座つていて、代表が前に出て男の子と組んで堂々とやり研究会ではほめてもあんな授業は頼りなくてしようがない。もつとぐんぐん教え込んで前の中学校時代みたいにやつてほしい。』という希望がありました。それで男の子の要求はもつともだ、女学校の方では早くからあのディスカッション式の授業をやっておつた。黙殺しようと思つたが生徒からの発言もあるので、各クラスでいろいろ

と事情を話したところ了解してくれた模様でした。『実に大勢の中には誤解するものもあり、今後言動には徹底さす必要あり』ということをメモしています。姫中のやり方と県女の指令通りに討論式でやる方法とで、男の方ではグングンと詰め込みもつと厳格にやつてほしいと言う、こういう点が交流後の授業面での私の体験した苦労の一です。

尾田先生 交流で一番喜んだのは演劇部です。今まで男ばかり女ばかりやつていたのが一緒にできるようになったからね。

観測は設備ではない

姫路高校教諭

桑原昭二（五五回卒業）



数のアメリカか
大きさのソ連か？
月世界旅行に成功
するのは、アメリ
カかソ連かなど一

般の関心は宇宙旅行にむけられています。
南極観測が本年から再開されることになりま
したが、その意義を否定しません。然し、

南極には他の国々が、立派な施設を作り、も
っと条件のよいところで観測をつづけていま
す。わざわざ南極観測船を建造してまで参加
しなくともよいと思います。むしろ、あれだ
けの予算を科学研究費にまわした方が、はる
かに成果は上ることでしょう。これらを考え
てみると、マスコミの作った輿論によつて
さわがれすぎます。日本人お互いの持つてい
る欠点であるかもしれません。その上困った
ことに科学に弱い人々には、眞の宇宙開発と

宇宙空想物語とを勝手にミックスして、小説
がむしろ眞実のような錯覚におちいってゆく
傾向さえ見られます。

宇宙は雄大であり、無限の遠方にまで拡が
ついていて、手によることが出来ないのです
が、これを未解決のまま残さずに研究し、解
明していくのが天文学ですが、決して手にと
れないからと言って、根も葉もない空想で進
めているわけではなく、そこには総べての科学
を基盤として、その研究の上に立って進めら
れているものです。それぞれの分野で地味に
基礎的な研究をつづけていくこそ意義があ
るもので。しかし世の中は基礎的な研究を
続いている人々を忘れ、その最後の課程を担
当している者のみを科学者の如く考えていま
す。天文学者もそのように認められない存在
です。御存知でしょうか、我が国天文研究の
総本山、東京天文台長が誰れであるか、宇宙
ロケットは騒がれてもこの通りです。この台
長さんこそ、我が白城会三八期の先輩広瀬秀
雄先生です。天体力学の権威であり、人工衛
星の観測でも世界的な称賛を受けておられま
す。古くは軌道の研究により彗星発見に導
かれました。中でも有名な話は、
掩蔽観測と言つて、月の後に星がかくされ
現象があります。つまり月の後に太陽がかく
されますと日食が起ります。これはまれにし
か起ります。そこでよく起る掩蔽を使つて
月の運動などを研究するわけです。この全国
的な掩蔽観測の結果から、日本地図の経度と
地球の差をみつけられました。昭和二十三年
に礼文島の金環日食があったのは記憶にある
と思います。このときの金環食は非常にせま
い範囲で起つたわけで、少しずれると金環食
の起る範囲からみだすことになるむづかし
い観測でした。この時に、平素の掩蔽研究か
ら導かれた「廣瀬理論」をもとにして、金環
食の中心線をずらせて、各観測團に成功を
もたらしました。当時は、終戦間もない頃で
我が国の科学水準がアメリカに低く見られて
いた時だけに、アメリカ観測團をアツと言わ
せました。

会員の中에서도すでに、天文の現役から退い
ておられる方も多くあります。広瀬先生に
続く白城会の二番星として輝くであろう人に
西高八回卒の内海和彦君があります。黙々と
星のスペクトル研究をつづけています。

はじめて自動車を持たれたとき、一日中自

自動車をのりまわしてみたいなどと考えられたことはありませんでしたか。しかし、タクシーの運転手は、一日中車を運転して楽しいでしようか、恐らく苦しいと思います。よく人々は空を眺めて楽しいでしようなど、なぐさめて下さいます。もち論、御世辞ではあります、自動車の場合と同じで、決して楽しいと言ったものではありません。観測をはじめた以上続けたいと言う意志以外の何ものでもありません。星に魅せられて言ったような、ロマンチックなものではなく、星に引かれて天文台参りといった方が適當かもしれません。私が市立の姫路高校で続けているのは天体観測と呼ばれる高級なものではなく、星のぞき程度のことです。いくら星のぞきと簡単に言つても、星は夜しか見ることができません。科学が進歩しても、これだけはどうにもなりそうにありません。そこで夜、掩蔽観測などをつづけています。掩蔽観測については前述の通りです。夜中の観測も楽ではありません。と言っても、夕方のし易い観測のみやついたのでは、他の観測者以上の観測は出来ません。人の眠っている夜中の観測をやらねばなりません。夜中の観測でも、二十四時とか、二十六時の観測はまだましで、二十八

時の観測ともなりますと翌日の勤務を持つものにとってはつらいものです。それに冬にもなりますと、観測を終ると体が冷えきついて、寝間に入つても一時間位は眠れません。やっと眠つた頃には起床です。掩蔽観測をやつても、恥かしい話ですが、勤務に追われての逃げ言葉の下口、観測値を東京天文台へ送りっぱなしで、天文台に任せっきりといったところです。報告する年はいい方で、観測結果を野帳に記録したまま眠つている年さえあります。

最近は、姫路の空も明かるくなり、潤つて暗い星の観測もできにくくなってきたことも事実です。しかし、まだ観測はできます。夜出来ない学校でも脇の太陽観測なら出来ます。長野県に三十年以上も観測を続けている学校さえあります。オックスフォード大学のプスケット博士は言っています。

「天文学は人が研究するのである。器械を動かすのは学問に対する燃えるような情熱と、学ぼうとする強い鉄のような意志とである。設備の整うのを手をこまねいて待つていても棚からボタ餅は落ちてこない。」

まことにその通りです。観測する意志こそ必要です。我々の天文台を見学された方が一設備がよいから観測できますね、うちは設備がないので観測できません」と感想をもらされます。この時程、その人があわれに見えることはないし、観測は設備が出来る以前から始めたことを知つてくれる人が少ないので情になります。

最近は、古老を訪ねて、我が国に伝わる星の和名を聞き集めています。星座と言えば、すぐに西欧のそれを考えますが、我々の祖先たちも星座を使っていたのでした。この星の和名の研究は、昭和十一年野尻抱影先生（大仏次郎氏の長兄）によって、はじめて系統づけられました。それ以後の進展はあまりみられませんでした。この付近をまわってみると、北極星をまわる北斗七星を、鬼星番星と呼んだり、南の空低く現わるカノープスを鳴門星と呼んだりしています。しかし七十才以上の古老人の頭にのみ残されているこの和名は、これらの人々の死と共に消え去つてゆくと考えるとじつとしておれません。夏休みに山口や四国農山漁村に足をのばしていく。星によつて時刻を知り、方位を知り、季節を知つた人々の生活を記録にとどめるべく頑張つてゆきます。老人から星の和名を聞かれるようなことがあればお知らせ下されば幸甚です。

今も昔も変わりはない

光文社編集長

伊賀弘三郎

(五六回卒)



二ヶ月ばかり前のことである。姫路中学の同級生で、兼松商事に勤めていた寺田武男君（五六回卒）から、私のところへ電話があつて、「今晚、同級生が十人ばかり集まることになつているんだが、君もぜひ出てくれよ。」とのことであった。あまり突然なので、正直弱った。実は、その日の夕方、東京郊外にある作家を訪問する約束があったからだ。しかし、当夜、出席者の名前を聞いていたうちに、猛然と懐しさがこみあげてきて、どうしても出席したくなつた。

会合の場所である神田の如水会館に駆けつけたのは、それでも八時近かつたろうか。会館の一室には、すでに全員が揃っていた。卒業（昭和二十年）以来初めて、という顔ぶれが殆んどである。それでも一見して顔も名前も判るのが約半数、あと半数も自己紹介を聞き、メガネを外してもらったり、少し角度

を変えて眺めたり、多少努力すると「アア、君だったのか！」と、結局全部判つた。人間の顔形なんてものは、二十年たつても大して変化も進歩（？）もしないものなんだなあ、という奇妙な感慨を催したことだ。

それはともかく、二十年ぶりに会つた友人の中には、よく授業時間中に私語を交したり紙つぶてを投げあつたり、申し訳ない話だが、貧乏ゆすりをする癖がある某先生の椅子の釘を抜いておいたり、とにかくワルいこと専門の相棒もいたし、当時、中学生には厳禁されていた映画見たさに、日曜日、わざわざ三宮まで出かけていった仲間（というより指導者）——この男は、現在、某超一流会社の課長になっている。やっぱり中学時代から抜け目がないやつは違うう）もいた。

方の記憶はあまり遡つてこなかつたが、『学業』の記憶はあまり遡つてこなかつた。無理もない。私が怠け者であつただけではなく、私も判るのが約半数、あと半数も自己紹介をした。うちのわゆる『末期戦申派』の同級生たちは、『国家の事情』によつて、あまり勉強していないのである。それでも、三年の初めごろまでは、一応まつとうな授業を受けたと思うが、三年の後半ごろから、四年、五年へと進み、戰局が悪化するにつれて、予科練への勧誘が激しくなり、陸士、海兵などの軍学校への進学ムードが高まり、ついに、『学徒勤労動員』で止どめを刺された形になつた。

私は不思議なご縁で、一年から五年まで引きつづき斎藤義夫先生（元西高の教頭、現在兵庫県立新宮高校校長）に学級担任でお世話をになつた。その斎藤先生が、この五月末に上京され、小生宅に一泊されたが、その時、『勤労員』の話が出て「本当に残念だった。その前の年までは、数年来ない優秀な学年なので楽しみにしていたのに、あれですっかりメチャクチャになつてしまつた……。」と歎息された。あのような状況下でも、私たちの学業について、そんなに情熱を傾けてくださつていたのかと、怠け者の生徒であった私は、今更でもないが申し訳ない気持がしたことであつた。

的な観念、ないしは気分に多かれ少なかれ支配されていたようだ。それはなにも、悲壯な決意で、天皇陛下の御為に、断ちがたい生への愛着を振り切ったなどという大袈裟なものではなかった。もちろん、国家存亡の危急を救おうといった気負いや、大東亜共榮圏、という国策に殉じようといった理想主義が、少しもなかつたわけではない。しかし、どの道を進むにせよ、私たちが、『短い生命』であることは、観念の問題ではなく、不変の現実あるいは宿命であった。必ずしも、時代に強制されたとは思わない。もともと、死の觀念を突きつめて考えることなど、この年頃の少年にとって困難である。ちょっとしたムードがあれば、死と馴れあうことなど容易である。「長くない生命」という観念（気分）には、一種の甘美さがあつて、少年たちの口に合つたし、それに、嫌いな勉強から逃避する恰好の口実にもなつたからだ。

しかし、同じ『短い生命』でも、なるべく「カッコよく」ゆきたかった。当時の序列では、文字通りカッコいい腰の短剣の海兵が最高で、次が肩で風を切る陸士、続いて七つボタンの予科練、微兵で引っぱられるのが最低であつたろうか。ただ困つたことに、カッコいい順に、勉強も沢山しなければならなかつた。だから、カッコよくゆきたい欲望の強いやつほど、クソ勉強をさせられた。それはもう、『学業』なんてシロモノではもちろんかつたけれども——。なんのことはない。今の高校生と、死ぬためと、生きるためという前提の違いこそあれ、また、家族の願望に背くのと、副つのとの差こそあれ、受験勉強」という点では、全く選ぶところはないわけである。

しかし、『カッコよく』とはい、いわば、死ぬために私たちはクソ勉強したのだった。（前述のように、それには何の悲壮感もなかつたが）今の高校生が、つらい受験勉強に音をあげているのを見ると、氣の毒だとは思う。だが、「諸君は生きるためにやってるんだから、あまり警沢いなさんナ」と、ちょっとからかってみたくもなる。受験勉強に楽しさを期待するのが、そもそも無理なのだ。

時代は変わり、文明は進む。それにつれて、人間もまた、少しずつ変わってゆくかもしれない。しかし、それは二十年やそこらでしか見てゐるような変化では決してないと思う。受験勉強のつらさは、二十年前も、今もそれぞれの特殊性を強調しあうことは間違はず、そんなことを強弁しあうことは、全く意味がないと思う。

私たち「戦中派」は、とかく『同情』されがちだが、そんな時、私は、ちょっとクスぐつたい気持がして、こう言いたくなるのだ。「私たちは、私たちなりにけつこう楽しい青春を生きたんですよ。ただ何人かの予科練で戦死したり、敗戦直後の混乱期に不慮の死をとげた不幸な友人たちを除けば——」

だろう。

支 部 だ よ り

〔東京支部〕

I、昭和三十九年十一月二十七日、築地スエヒロスカイグリルで支部総会を開催した。出席者九〇数名で左記の諸件を決定し、校歌“呼べよ天下の白鷺城”、“鷺山に秋の夜は更けるまで総会は続き、まことに盛会であった。

決定した主要な事

- (1) 支部長 桑田時一郎(二三回卒)
 - (2) 顧問 沼義雄(一回卒)
 - (3) 幹事 二十七名 氏名省略
- 会計監事二名 幹事中より互選
- II、総会後十二月に東京支部会則を決定し、併せて支部事務所を東京都中央区銀座西七丁目六（金井ビル）前田知克（五九回卒）法律事務所に設置した。

III、白城会館建設資金寄付募集について本部と緊密な連絡のもとに下記の通り進展しつつあります。

(1) 東京支部運営に必要な基金をつくる事を後廻しにして本部寄付金募集に全面的に協力する。

(2) 幹事を中心に実行委員を九八名選定し募金に全力を注いでいる。

(3) 計算上の支部目標額一、八五五、〇〇〇円に対し四〇年六月一五日現在募金額は一、六二九、二〇五円で八七・八%に達し、今一息というところです。

以上。

執筆者 足立良平(三六回卒)

〔県庁白城会〕

主な行事 (1) 県庁白城会総会を三十九年九月下旬開催。約三〇名参会して盛会であった。

(2) 四十年三月下旬、幹事会を開き、七名集合。食事を共にしながら同窓会館寄付金募集督励の件を協議し、職域支部として協力することを決定した。爾後各部毎に幹事が活動、効果を収めて送金した。

II、総会後十二月に東京支部会則を決定し、併せて支部事務所を東京都中央区銀座西七丁目六（金井ビル）前田知克（五九回卒）法律事務所に設置した。

には県人事委員に就任されたので、本会会員となつた。

顧問元原利一氏(二九回)は、この度の改選で県会警察常任委員長になった。

県農業試験場化学部長芥田三郎氏(四二回)は山口大学教授に榮転された。家族はもとのまま姫路におられる由である。

灘警察署長置村武雄氏(四一回)は毎回の会合に出席されていたが、停年で退職された。

職員課薬剤師加藤英子氏(西高一一回)は結婚のため退職。豊中市在住。

教委事務局係長河田幹雄氏(四四回)は、篠山産業高校長に栄転された。

その他諸般のこと 営繕課足立英雄技師(五

四回)は、図書館及び同窓会館の建設設計のために心血を注がれている。感謝に堪えない。入札がおくれているが、われわれも督促中で近く着工の予定である。

執筆者 会長、県出納長、吉田豊信(四〇回卒)

〔京都支部〕

総会及び懇親会 五月二十九日(土)午後五時半より八時まで、四条大橋西詰東華菜館

にて出席者一二三名を迎えて開催。本部より石坂豊明・田中秀治・尾田龍三先生出席定刻開会、三十九年度各種報告、四十年度計画、会計、委員等を承認し、六時半頃より会長井上智勇氏の乾杯にて懇親会に入り活気ある和氣あいあいの会合が続けられた。諸先生の学校近況報告もあり、来年の再会を期して八時半、母校の発展と会員の前途を祝して解散する。

〔阪神姫中クラブ・白城会阪神支部〕
本会の特徴 学生会員が大多数で、経費等の運営が重大な問題である。現在特別会員一、姫中出身五〇、西高出身二七七、計三二八、内社会人六一名である。

執筆者 高橋 勘氏（四四回卒）

〔姫路市役所白城会〕
構成 大先輩の石見市長（元秀、一九回卒）を初め、市議会議員六名その他を特別会員（一三名）とし、一般会員（市職員）一七一名、合計一八四名で、それぞれ行政の重要ポストにおいて飛躍する市政の推進に日夜尽瘁しております。（一般会員中局長二名、局次長二名、課長一三名、課長補佐二名、係長三〇名）

行事 每年春に市長臨席のもとに総会懇親会を開催し、又冬期には各種のレクリエーションを実施して、会員相互の親睦と知識の向上を図っています。昨年十二月六日には有馬ヘルスセンター、宝塚歌劇等にレクリエーションを実施し、本年五月二十八日には総会・懇親会を開催致しました。

執筆者 幹事長 岡 善一（三八回卒）

〔姫中会東海支部〕
姫中会三十一回卒業生の会を神戸銀行の日本橋支店で開催、当日名古屋から出席下英男氏の世話で開催、有志が姫中阪神クラブとして、毎月第二木曜日に神戸大丸前の日本毛織のビル六階の二ツチグリルで午餐会を開催しています。既に百十回以上継続しております。是非ご都合のつく時に参会下されば、どなたに限らず歓迎いたします。去る六月十七日には、総会を神戸銀行訪山寮で開催いたしました。総会は毎年一回六月頃に行うことになってますが、此

の時はいつも多数出席されて賑かです。

執筆者 南 健三氏（二五回卒）

〔姫路市役所白城会〕
構成 大先輩の石見市長（元秀、一九回卒）を初め、市議会議員六名その他を特別会員（一三名）とし、一般会員（市職員）一七一名、合計一八四名で、それぞれ行政の重

要ポストにおいて飛躍する市政の推進に日夜尽瘁しております。（一般会員中局長二名、局次長二名、課長一三名、課長補佐二名、係長三〇名）

本部告知版
大阪支部再建の経緯

昭和四十年六月十日（木）午後五時から梅田の北京に於て姫中八回の小林甫氏を最年長に、本年姫路西高を卒業した十七回生に至るまで二〇〇名近くの同窓が参集して賑々しく決議、村田会長以下の役員が選任され、歎談数刻、応援歌を高唱して昔の姫中、西校生時代にかえった思いをしたのであります。大阪支部再建の第一回総会が開かれ、会則を作っていたのでありますが、何時の間にか中断、その再建は一同の念願でありましたが、姫中二回の村田広舜氏、三回の早原栄一氏のお骨折で本年三月二十一日（日）住友銀行日本橋支店で、大阪在住の各回の有志に参集を願い本部からも空地理事長以下校内理事も参加して、大阪支部再建の方針が決つたのであったと存じますが、それが総会の盛況に実ったわけであります。今後の大坂支部の発展を期待して筆をおきます。

執筆者 竹田 直氏（二六回卒）

皆様の健康を祈ります。

名古屋には荒木鶴雄氏（二四回卒）石田茂氏（旧姓森茂氏、三十一回卒）などと時に会います。何分会員が少ないので会合のチャンスが無く、年に一回か二回会ってお互に親睦を深めています。

執筆者 竹田 直氏（二六回卒）

白城会文庫目録

(追加分 昭和40年5月調)

回期	著者	書名	回期	著者	書名
景福	三上 参次	尊皇論発達史	42回	泰井 俊三	神経痛とりウマチ 馬鹿について
4回	辻 善之助	聖徳余光	43回	黒岩 一郎	親鸞と現代
17回	和辻 哲郎	故国の妻へ	45回	町田 充	労働事典 労働立法の基盤
29回	福井 康三	人間と綿羊			官界春秋記
30回	神吉 晴夫	俺は現役だ カッパ大将 (神吉晴夫奮戦記)			無教会主義の反省と 未来展望
32回	阿部 知二	昭和文学全集 (第49巻)	50回	高橋 三郎	ロマ書講義ⅠⅡⅢ 真理と繼承
32回	木村 重夫 (遠地輝武)	小杉放庵 現代の素描美			ヨハネ伝講義Ⅰ
34回	東郷 豊治	良寛歌集	51回	米田 幸夫	金属の化学
36回	井上 智勇	古典古代 (京大西洋史2)	55回	桑原 昭二	星の和名伝説集
38回	三宅 俱哉	遠くて近い (欧米80日間の旅)	57回	山田 安彦	地理実習
40回	椎名 麟三	昭和文学全集	併申1回	飯沼 和正	四季の信州
40回	藤原 秀夫	小さき群	西5回	内藤 道雄	内藤道雄詩集

本部告知板

本部理事の異動

この度、尾田龍先生御退職に伴い、本部理事に若干の異動を生じ、去る五月二八日の理事会にて全員の承諾を得ましたので、ここに報告致します。尾田龍(36) 校内理事から校外理事に新たに次の二名の方に校内理事に御就任願いました。

下村貢(59) 井上博道 西(5)

白城会名簿の刊行

本号の最後に報告しているように、待望の白城会名簿が近々発行されますが、これについて一言お願いします。現時点で最も正確な名簿をつくりたいへん苦労してのべく会員毎にパンチカードを作り逐次修正して名簿係は石坂先生をはじめ一同たいたいへん苦労してあります。依然として消息不明の方や、その後の変更のつかめない方がまだ本部ござります。お心当たりの方は、早急に本部名簿係までお寄せ下さい。なお、新名簿をご覧になつて、そういう点で、ご自身の場合はもちろん、他の人の場合でもお気付きになりましたら必ずご連絡下さい。原簿のカーボードを訂正し今後の連絡にすぐ活用し、又次期の名簿原稿といいたします。

募金について

募金の中間発表は七月十日現在本部到着の方につき正確を期しましたが、記入もれがあるかも知れませんし、又改姓された方や、卒業期の記入のない方、受領証が届かない方もあるかも知れません。その他不審のある方は至急本部まで照介をして下さい。

白城会総会

—全会員の御参集を乞う—

一、時日 昭和四十年八月十五日（日）
午後一時半より

二、場所 母校 新体育館
長・四十五回卒

三、講演並びに余興

長浜正雄氏（大阪鉄道管理局

演題

「鉄道の将来について」

余興 奇術 姫路医師会奇術班出演

四、会費 五〇〇円（写真代を含む）

恒例の白城会総会開催の時期と相なりました。暑い中にかかわらず、例年多くの方々の御参集を得ていますが、今年も一層の盛況たらしむべく、諸賢の御参集をお願い致します。特に若い方々は、ぜひ母校で大いに青春の気を吐いていただきたく、御来校をお待ちしております。

なあ、これをもって御案内状に代えさせていただきます。

白城会名簿 40年版

新企画を盛って、近々発行

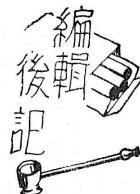
購入予約は早いめに

同窓会の名簿としてふさわしい内容にすべく、数々の新企画を盛った「白城会名簿」が十月月初旬に発行されます。前回のものより、さらには確実さと便利よさを加え、四七〇頁に余る大部のものとなる予定です。印刷部数は四〇〇〇部ですが、前回同様、早急に売り切れおそれがありますので、購入御希望の方は左記の要領に従って、さっそく御送金して下さい。製本が出来次第順次発送します。

記

(一) 販価 一部 五〇〇円（送料を含む）
(二) 送金の方法 直接持参、または「白城会通信」の中に折込んだ替為用紙を使用。（住所は詳細明確に記入のこと）

B 備考 A 以前の文書で購入の申込をされられた方も、(二)の手続に従って下さい。
兵庫県立姫路西高白城会



お粗末ながら第二号をお届けします。
第二号はもつと早く出す予定で準備は

しておりますが、

第二号のトップ記事をなんとかして白城会館の起工式で晴れやかに飾りたく、その日を今日から明日かと待ちわびているうちに、諸般の事情で遂に待ち切れず、発刊へと踏み切らねばなりませんでした。まことに残念です。しかし、この第二号が皆様のお手許に届く頃には、母校校庭の一角では同窓一万三千名の熱願を託して、逞しい会館建設の槌音が高鳴っている筈で、いずれその偉容を皆様のお目にかかる日も近い事と思います。

顧みますと、この一年間、本部はまことに多忙で神経の焦立つ毎日でしたが、同時に人の情に涙ぐむ思いをさせられたことも屢々ありました。たとえば、亡夫になり代り一臂の力をと墨痕に在りし日の夫の真情を託して、淨財を寄こして下さった十回の故難波秀太郎氏や五五回の故矢田賢亮氏の奥様方など御芳情のほど深謝に耐えない次第です。
梅雨まだ明けやらぬ頃、あじさいの花を眺めやりつつ。（編集係 五八回 橋 義康）